

平成17年度
入学試験問題
(特待生)

国 語

受験番号	氏 名

中村中学校

一 次の(1)～(10)の

線部のカタカナは

漢字に直し、漢字はその読みを答えなさい。

- (1) 父との往復シヨカン。
- (2) 手紙をハイケンする。
- (3) 日本国ケンポウ。
- (4) 山のイタダキを目標して登る。
- (5) 文化をソウゾウする。
- (6) 深紅の優勝旗。
- (7) ファンの声に奮起する。
- (8) 世界でも有数の穀倉地帯。
- (9) 我先にと走り出す。
- (10) 雑貨を商う。

二

次の各文の敬語の使い方は誤っています。

誤った箇所をぬき出し、正しい表現に直しな

さい。

- (1) 母は仕事で留守なので、代わりにお兄さんが参ります。
- (2) 料理が温かいうちに、どうぞいただいでください。
- (3) そちらのお宅に、あゆみさんはおりますか。
- (4) 先生から母に申し上げてください。
- (5) 分からないことは何でも私におうかがいください。

③ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

同時多発テロ事件のあとアメリカによるアフガン空爆が始まりました。

そのとき、「アメリカの立場」から一方的にもものを見ないで、「爆撃され、家を焼かれ、傷つき、殺されているアフガンのふつうの人たち」の気持になって、この戦争を考えたら、ずいぶん違った風景が見えてくるだろうという意見が多くのメディアで紹介されました。同じことを新聞の社説でも投書でも知識人や政治家のインタビューでも多くの人が口にしました。

戦争や内乱や権力闘争について、コメントするときに、一方的にもものを見てはいけない。なぜなら、アフガンの戦争について「アメリカ人から見える景色」と「アフガン人から見える景色」はまったく別のものだからだ、ということとは私たちにとって、いまや「常識」です。

しかし、この常識は実はたいへん「若い常識」なのです。

このような考え方をする人はもちろん一九世紀にもいましたし、一七世紀のヨーロッパにもいました。遡れば、遠く古代ギリシャにもいました。しかし、そついつつに考える人は驚くほど少数でした。そのような考え方をする人、あるいはそのような考え方を受け容れられる人が国民の半数以上に達して、「常識」になったのは、ほんのこの二十年のことです。

例えば、いまから三十年ほど前、アメリカはベトナム戦争でじめめな敗北を経験しましたが、その当時、「アメリカ人から見たベトナムの風景」と「ベトナム人から見たベトナムの風景」は違うというようなことは、ほとんどアメリカ国民の脳裏に浮かびませんでした。アメリカにとって、ベトナムは「ドミノ理論」という数式的な世界戦略の中

での「ドミノ」のコマの一つに過ぎず、「生身のベトナム人はアメリカのアジア戦略をどう評価しているのだろうか」というようなことを真剣に配慮している政治家はほとんど存在しませんでした。

そのさらに三十年前、当時の大日本帝国臣民にとって、「日本人から見た満州国」と「中国人から見た満州国」が別様に見えるというようなことは少しも「常識」ではありませんでした。「中華民国の人々から見た満州国の評価」を尊重しつつわが国のアジア外交は展開され立案すべきだというようなことを説いた）

A 国人と B 国人は同じ一つの政治的事件について違う評価をするということは「事実」としてはもちろん誰にだって理解できます。しかし、A B それぞれの国民のもの見方はとりあえず「等権利的」であり、いずれかが正しいということにはわかには判定しがたいという意見を公言した人は、世界中どこでも、近年まで、ほんとうに少数だったのです。

ヨーロッパでも事情はそれほど変わりません。

一九五〇年代のアルジェリア戦争のとき、ジャン・ポール・サルトルは「フランスの帝国主義的なアルジェリア支配」をきびしく断罪しました。サルトルが「フランス人のもの見方」を相対化したことは確かです。しかし、サルトルは「アルジェリア人民の民族解放の戦いは断固正しい」と言っただけであって、フランス政府の言い分にもひとしく配慮したわけではありません。

国際的紛争においては、抗争している当事者のうちどちらか一方に「絶対的正義」があるはずだ、というのがその時代の「常識」であり、その「常識」はサルトルにおいても、(a) 疑われてはいませんでした。

この時期に「フランスとアルジェリアの言い分のいずれが正しいかは、私には判定できない。どちらにも一理ある

し、どちらも間違っている……。」と正直に語ったフランス知識人は、私の知る限り、アルベール・カミュただ一人でした。そしてカミュはこのときほとんど（ ）だったのです。

それがどうでしょう。

「ジョージ・ブッシュの反テロ戦略にも一理あるが、アフガンの市民たちの苦しみを思いやることも必要ではないか」というのは、街頭でいきなりTVにインタビューされた場合に（ b ）無難な「模範解答」です。人々は（ c ）判で押ししたように同じことを言います。（ a ） b （無難」とみんなが思っている意見のことを「常識」というのです。そして、このような意見が「常識」になったのは、ほんとうに（ d ）最近のことなのです。

世界の見え方は、視点が違えば違う。だから、ある視点にとどまったままで「私には、他の人よりも正しく世界が見えている」と主張することは論理的には基礎づけられない。私たちはいまではそう考えるようになっています。このような考え方の批評的な有効性を私たちに教えてくれたのは構造主義であり、それが「常識」に登録されたのは四十年ほど前、一九六〇年代のことです。

（内田樹「寝ながら学ぶ構造主義」）

メディア……新聞・出版・放送・映画など。

問一 ～～～～線A、Bと同じ内容を十七字で述べている箇所がある。その部分を本文よりさがし、最初と最後の三

字を答えなさい。（句読点を含む）

問二 線 とはどのような常識のことか。説明しなさい。

問三 線 とあるが、なぜ「若い常識」と言っているのか。説明しなさい。

問四 () に当てはまる文を次から選び、記号で答えなさい。

ア、中国人はほとんどいません。

イ、日本人はほとんどいません。

ウ、中国人は少しずつ増えていきました。

エ、日本人は少しずつ増えていきました。

問五 線 とあるが、この少数派の一人を本文中よりぬき出しなさい。

問六 線 とあるが、国同士の争いごとについて、この当時はどのような考え方が常識だったのか。簡潔に説明しなさい。

問七 (a) (b) (c) (d) (e) に当てはまる語句を次から選び、記号で答えなさい。

ア、ごく イ、とりあえず ウ、きつと エ、少しも オ、もし カ、まるで

問八 () に当てはまる四字熟語を次から選び、記号で答えなさい。

- ア、悪戦苦闘 あくせんくどう イ、自画自賛 じがじざん ウ、唯我独尊 ゆいがどくそん エ、天涯孤独 てんがいこどく オ、孤立無援 こりつむえん

問九 本文の内容に合っているものを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア、同時多発テロ事件のあと、世界中の多くの人々がアフガン空爆に賛成だと発言した。
イ、国同士の紛争があると、新聞は知識人や政治家の意見を特に重視して報道する。
ウ、一つの争いごとについて、国が違つと評価も違つという事実は多くの人が理解している。
エ、アメリカ大統領の反テロ戦略を、理解できないことだと考えている人は比較的多い。
オ、一方向からものを見ている場合、他の人より正しく世界が見えているとは言えない。

四 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

主人公の達也は、三十七歳の誕生日に、妻の久美子、そして二人の子ども（小学二年生の俊介と幼稚園年長の麻美）を連れて、海のそばの「なぎさホテル」に家族旅行に来ています。

隣の部屋となりのチャイムを鳴らすと、俊介が笑いながらドアを開けた。よほどおかしなことがあったのか、顔を真っ赤にして、脇腹わきばらをおさえ、目には涙なみだまで浮かべていた。

「シюнちゃん、どうしたの？」と久美子が訊きく。

「だってさあ、ママがバクショーさせてくれるんだもん。あいつ、ちょーバカ」

麻美は、ドレッサー兼用けんようのデスクの前でふくれつらをしている。

「絵はがき書いてたんじゃないのか？」と達也。

「だからあ、その絵はがきがバクショーモンダイなわけ、見てよ、パパもママもぜーったい笑うから」

ベッドの上に書きかけの絵はがきがあった。「これか？」と手に取って、久美子と左右から覗のぞき込んだら、俊介の言ことつとおり、ただし俊介の狙ねらいとは少しずれたところで、二人ともプツと吹き出してしまった。

書き出しが ついしん。

「シюнちゃん、あんたねえ、知ったかぶりして間違まちがったことをマミちゃんに教えるのやめてって言うてるでしょ」
「うそ、マジ？ 『ついしん』じゃなかったっけ？」

一気に旗色の悪くなった俊介を、麻美は「やーい、おーうそつきーっ」と嘸はした。

つづきを読んでいった達也と久美子は、今度は腹かかを抱かかえて笑いだす。

ついしん りえちゃん、おげんきですか。わたしはいま、さなぎホテルに

「ね、たまんないよね」俊介はベッドにとび乗った。「カイコじゃないっつーの」

「そんなこと言わないの、誰だつて間違えることはあるんだから」

「いねーつてば、そんなバカ」

泣きだしそうになった麻美を、達也は右手で抱き取った。

左手の絵はがきを、もう一度……二度、三度と読み返すと、俊介や麻美をからかうのとは違う笑みが浮かんだ。悪くない。ついしん で始まる手紙。さなぎホテル。まったく、悪くない。

人間はもちろん 麻美だつて知っている、さなぎにはならない。だが、もしかしたらそれは体だけのことで、心はわからない。こどもからいっぺんにはおとなになりきれず、さなぎの時期を過ごすひともいるのかもしれない。

「ママ、このはがき、パパにくれよ」

「……いいけど？」

「パパの宝物にするから」

まず麻美に、それから俊介に微笑みかけた。子供たちは二人ともきょとんとしていた。「だいじにとつとくから」と声を出して言つと、顔を見合わせてくすぐったそうに肩をすばめる。

久美子を振り向いた。目が合った。なにか言おうとして振り向いたはずなのに、正面から久美子を見つめてしまうと、苦笑いしか浮かばない。照れ笑いだったかも、しれない。

久美子は黙つて達也の手から絵はがきを取って、（ １ ）目をそらし、子供たちに向き直って、言った。

「ねえ、だったら、『パパおめでとう』って書いてやわない？」

俊介も麻美も賛成して、さっそく三人はメッセージを書き込んでいった。

お誕生日おめでとう と久美子。

ハゲないでください と俊介。

麻美は おめでとう の横に、チヨウチヨも描^かいてくれた。

「はい、パパ」と俊介は賞状かなにかのように(2) 絵はがきを返した。達也は少し照れて、小首をかしげながらチヨウチヨを指差した。

「俺^{おれ}も早くチヨウチヨにならなきゃなあ」

久美子が、知らない、というふう^かにそっぽを向くのと入れ替^かわりに、麻美がまた頬^{ほお}をふくらませて「ひっどーい」と達也をにらんだ。

(3)

(重松清「なぎさホテルにて」)

ドレッサー……鏡つきの化粧台。

問一 線 「よほどおかしいこと」とは、どのようなことか。くわしく説明しなさい。

問二 線 の俊介のした「知ったかぶり」とは、どのようなことか、答えなさい。

問八 文中の（ 3 ）に入る文を次から選びなさい。

ア、どうやら麻美は久美子の冷たい態度に腹をたてたらしい。

イ、どうやら自分の書いたチヨウチヨが久美子に無視されたと思ったらしい。

ウ、どうやらこのチヨウチヨ、ハートマークのつもりだったらしい。

エ、どうやら自分の書いたチヨウチヨが気に入らないらしい。

オ、どうやらもうチヨウチヨの話題から離れたいと思っ**はな**っているらしい。

問九 次の人物の説明について正しいものを二つ選び、記号で答えなさい。

ア、俊介は何かにつけて妹をいじめる兄である。

イ、達也は今まで以上に成長していこうと思っている。

ウ、麻美はつまらないことで、すぐにふくれ面をする子である。

エ、久美子は母親としての役目は果たすが、家族に無関心である。

オ、俊介は口は悪いが、なにかと妹の面倒を見たがる兄である。

カ、達也は普段と違い、旅行のときだけいい父親を演じている。

キ、麻美はお天気屋のうえに、あまり賢くない勉強嫌いの娘である。

ク、久美子は夫が困っているときにそっぽをむく冷たい妻の一面を持っている。

